

青山神明遺跡の井戸について

梶田 真由

青山神明遺跡は愛知県西春日井郡豊山町に所在し、2023 年度から発掘調査を行っている。2024 年度末時点で井戸が 30 基以上検出されており、平面形状や深さには多様性が見られる。遺物は主に中世陶器が出土している。

そこで本稿では青山神明遺跡で検出された井戸の平面形状や深さを形式的に分類し、遺物から時期の推定を行った。その結果、時期により深さ異なる可能性を指摘した

1. はじめに

愛知県埋蔵文化財センターでは、大山川の河川改修や愛知県の防災拠点の建設に伴う事前調査として西春日井郡豊山町青山神明地区周辺で発掘調査を行なっている。

青山神明遺跡は小牧台地の南端、標高約 10m の低位段丘上に立地する。東側には一級河川大山川、西側には中江川が流れており 2 つの河川に挟まれている地形となっている。

本遺跡は近代以降の様々な活動によって影響を受け、遺構の残存状況は部分的には良好ではないものの、元来深さのある井戸については 2024 年度末時点で 30 基以上が検出されている。

愛知県内では、1800 基以上の井戸が検出事例として報告され、最も古いものは弥生時代中期まで遡るが、低位段丘上での検出例の報告は低地部に比較すると少ないため、今回の検討対象とした。

2. 井戸の先行研究と課題

井戸の研究については、『井戸考』（宇野 1982）により全国各地の井戸を通時代的に収集され、その歴史的変遷が把握された。

『井戸の考古学』（鐘方 2003）では、宇野氏の井戸考と異なり井戸の組み立て方の違いについて書いている。また日本の井戸以外にも海外の井戸も比較している。

『井戸再考』（埋蔵文化財研究会 2008）では、弥生時代から古墳時代の全国の井戸を集成し、

井戸の地域性を明らかにした。

愛知の井戸の研究については、『尾張平野における中世井戸の構造とその変遷に関する覚書』（北村 1997）で尾張平野における中世井戸の構造の変遷がされている。

このほかに「中世井戸についての若干の考察 - 愛知県下の事例を中心として -」（鈴木 2002）では、井戸側の構造と遺跡の立地の関連性を指摘した。

これまでの先行研究の課題としては、尾張地方の低位段丘に限定した場合に、近世以前の検出例が乏しく周辺地域における研究の成果が十分に反映されてこなかったことがある。しかし 2024 年度末時点には、青山神明遺跡の発掘調査の進展の可能性が出てきた。

3. 青山神明遺跡の現在までの調査成果

青山神明遺跡は 2023 年度から発掘調査が行われており弥生時代前期から中世・近世にいたる遺構・遺物が出土している。出土遺物は中世陶器等が多い。

遺跡の西側では、遺構の残存上状況が比較的良好で、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている。調査区範囲の東側では方形周溝墓や土坑墓が検出される。また 2024 年度段階では大山川に近くなると西側と比べ遺構が希薄になる傾向が見られる。

4. 研究方法

今回検討対象とした井戸は、2023 年度に検出された青山神明遺跡 23A・B・C・D 区、2024 年度に検出された 24A・B・C・D・K・H 区の計 36 基である。

青山神明遺跡の基本層序は、1 層から 4 層は黄色土の粘土層である。5 層は礫を含む砂層である。6 層は硬い砂層となっている。7 層目は、5 層目と同様に礫を含む砂層である。湧水層は、4 層と 5 層間の層、6 層と 7 層間の層の 2 箇所確認されている。

井戸の深さの違いについて模式図で表した。(図 1～図 3)

井戸の分類については、掘り方の平面形状と深さに注目した。井戸の平面形状を 3 種類、深さを 3 種類として、計 9 種類に分類した。

平面形状については A～C 類に分類した。

A 類：掘り方の平面形状が円形または楕円形

B 類：掘り方の平面形状が方形または隅丸方形

C 類：掘り方の平面形状が不定形

深さは a 類から c 類に分類した。

a 類 (図 1)：調査時の湧水層 (5 層) 直上まで掘削

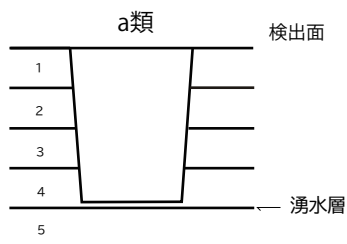


図 1 a 類の井戸の模式図

b 類 (図 2)：調査時の湧水層 (5 層) にまで掘削

c 類 (図 3)：調査時の湧水層 (5 層) に達し 6 層まで掘削または、下の湧水層まで掘削されている井戸とした。※ 2 つに細分した分類を示す。C1・C2 類

遺物の分類は、瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第 5 輯の『中世瀬戸窯の動態』P51 の山茶碗の編年表と愛知県史の『別冊 窯業 2 中世・近世瀬戸系』の P794 から P816 の編年表を参考にした。

今回ページの都合上全ての井戸を紹介することはできないので代表的な井戸を 12 基図示した。

右のページの地図 (図 4) は 2024 年度までの青山神明遺跡の全体図である。黒い丸で示した部分は井戸が確認された場所である。今回は、調査区が表記している所のみ井戸を使用している。

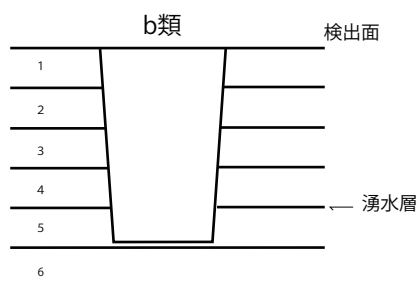


図 2 b 類の井戸の模式図

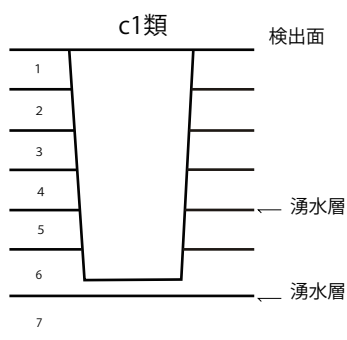


図 3-1 c1 類の井戸の模式図
(6 層まで達している井戸)

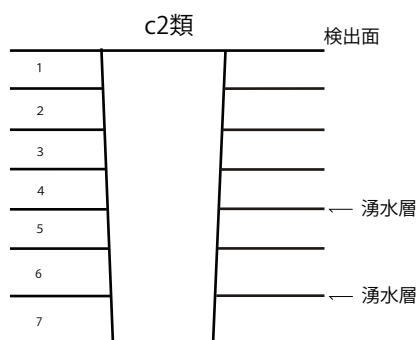


図 3-2 c2 類の井戸の模式図
(下の湧水層まで達している)

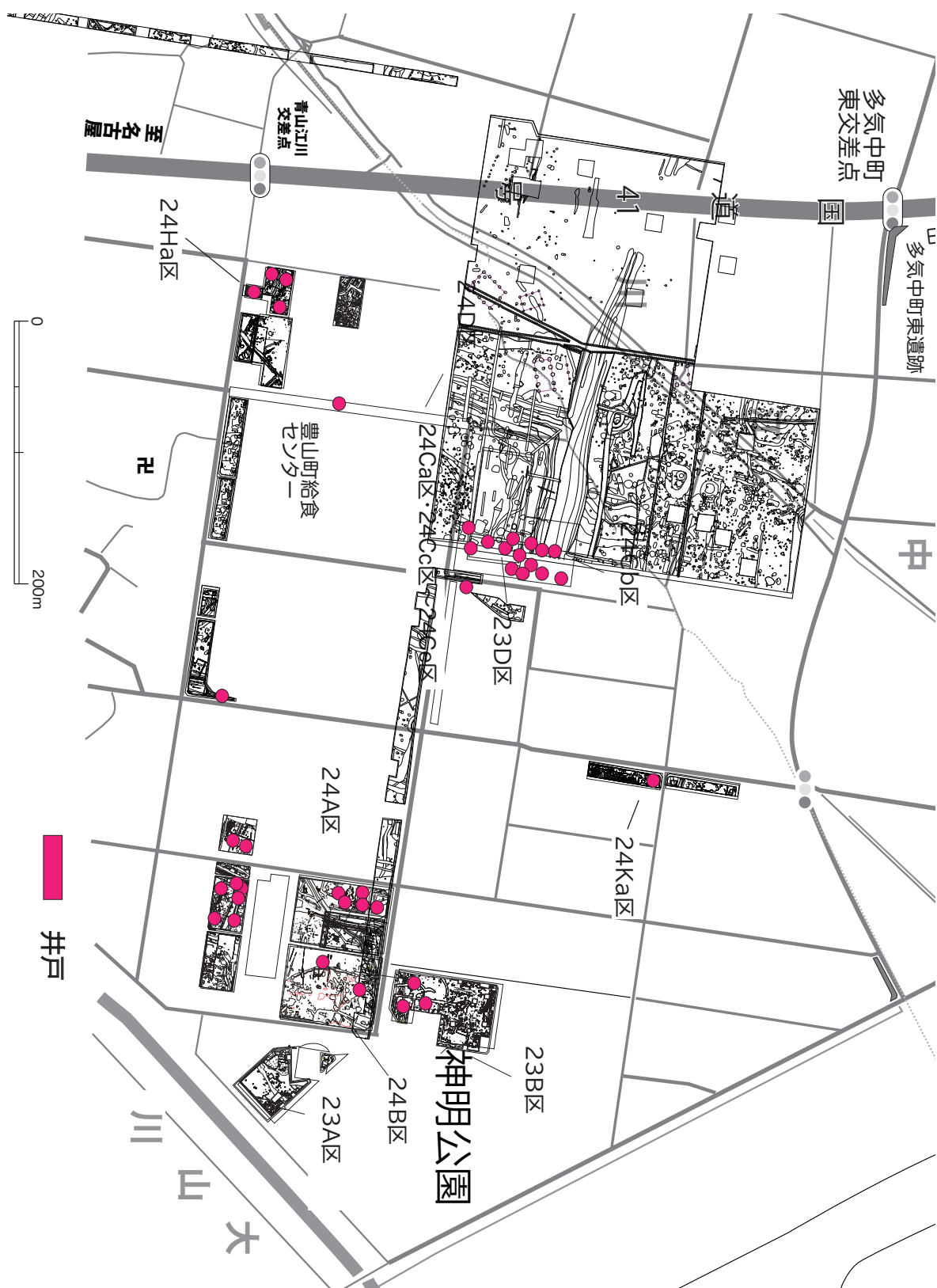
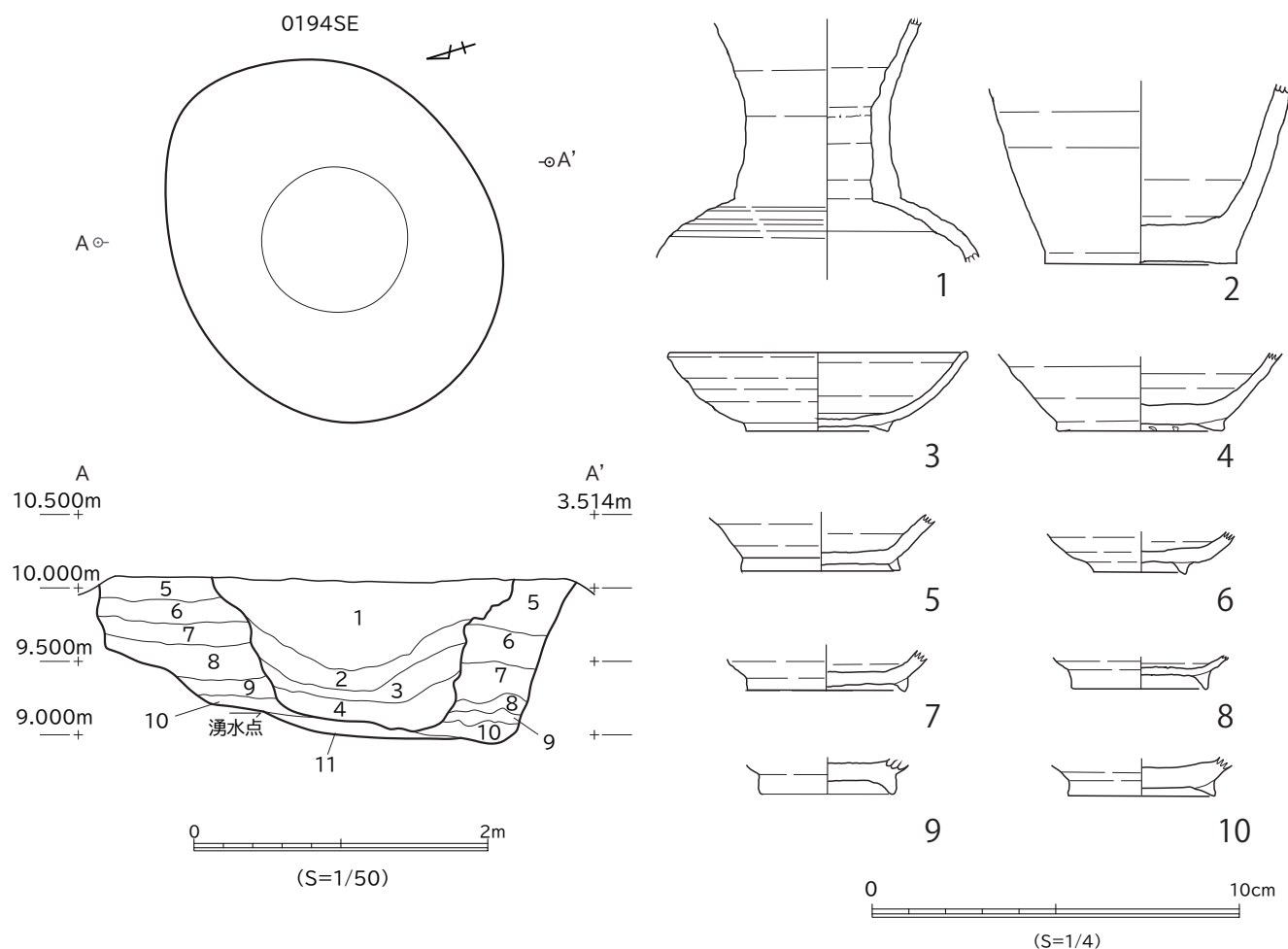


図4 青山神明全体図



- 1 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量 10YR4/1粘土ブロック中量 焼土粒少量含む。
 2 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量 焼土粒少量含む。
 3 10YR4/1 褐灰色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量 酸化鉄粒 炭化物少量含む。
 4 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量 植物遺体多量 酸化鉄粒少量含む。
 5 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量 炭化物少量含む。
 6 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 10YR3/1 黒褐色粘土粒少量含む。粘性強く、しまり強い。地山。
 7 10YR4/4 褐色 粘土 10YR3/1 黒褐色粘土ブロック中量 植物遺体少量含む。粘性強く、しまりやや強い。地山。
 8 10YR6/6 明黄褐色 粘土 10YR3/1 黒褐色粘土ブロック少量含む。粘性強く、しまり強い。地山。
 9 10YR6/8 明黄褐色 粘土 10YR3/1 黒褐色粘土ブロック中量 酸化鉄粒少量含む。粘性強く、しまり強い。地山。
 10 10YR5/8 黄褐色 砂質土 10YR5/6黄褐色細粒砂多量 酸化鉄粒多量含む。粘性強く、しまりやや弱い。地山。
 11 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土 10YR5/6黄褐色粘土ブロック少量含む。粘性弱く、しまり強い。

図5 194SE 平面図・断面図 Aa 類

5. 井戸の分類

掘方の平面形状と深さによる分類の代表的なものについて以下にあげておく。

Aa 類の井戸

Aa 類の井戸は 15 基であった。

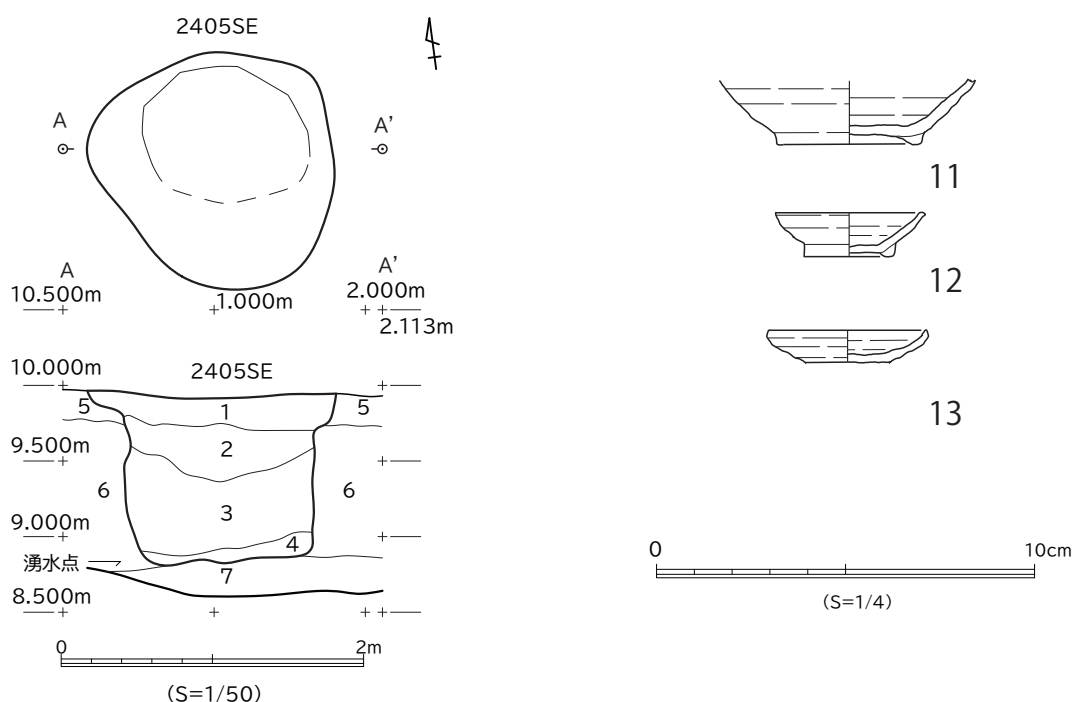
23D 区 0194SE は、深さが 0.36m の井戸である。湧水層の直上まで掘削されている。掘り方の断面はロート型で平面形状は円形をしている。

出土遺物は 10 点あり、1 は壺である。2 は鉢である。3・4 は尾張型第 4 型式の山茶碗、5 か

ら 8 が 4 型式の小碗、9・10 は尾張型第 5 型式の山茶碗である。

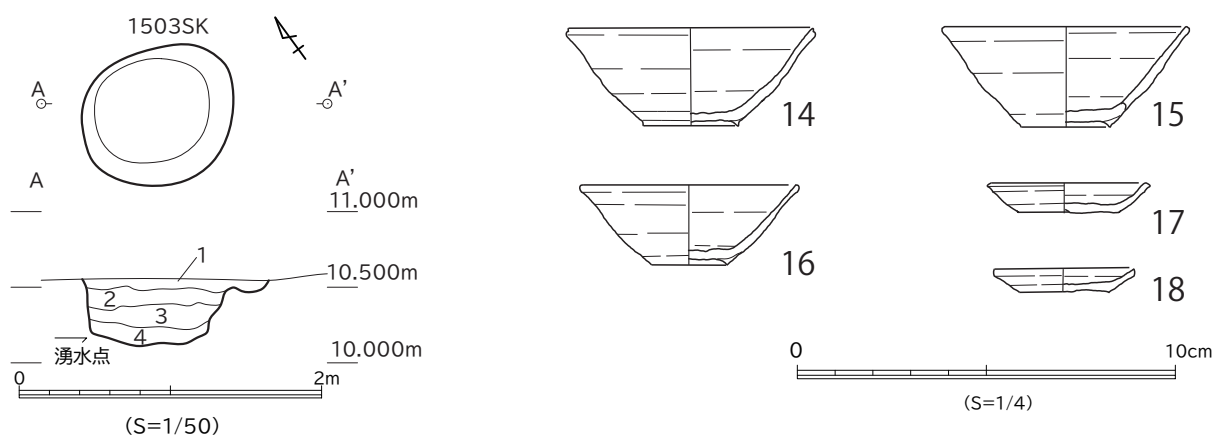
24Cd 区 2405SE は深さが 1.18m の井戸である。湧水層の直上まで掘削されている。掘り方の断面形状は筒形をしている。

出土遺物は 3 点ある。11 は尾張型第 5 型式の山茶碗、12 は尾張型第 4 型式の小碗、13 は尾張型第 5 型式の小皿である。



- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
 2 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
 3 10YR2/1 黒色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
 4 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
 5 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック微量 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土ブロック微量含む。粘性強く、しまりやや弱い。(地山)
 6 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。粘性強く、しまり弱い。(地山)
 7 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質土 礫多量含む。粘性無し、しまり強い。(地山)

図 6 2405SE 平面図・断面図 Aa 類



- 1 10YR4/1 褐灰色粘土層 10YR7/1 灰白色斑土含む
 2 7.5YR3/2 黒褐色粘土層 10YR4/1 褐灰色斑土含む ϕ 15cm以下の円礫を少量含む
 3 10YR3/1 黒褐色粘土層 ϕ 20cm以下の円礫を多数含む
 4 10YR5/2 灰黄褐色粘土層 ϕ 20cm以下の円礫を多数含む

図 7 1503SK 平面図・断面図 Ab 類

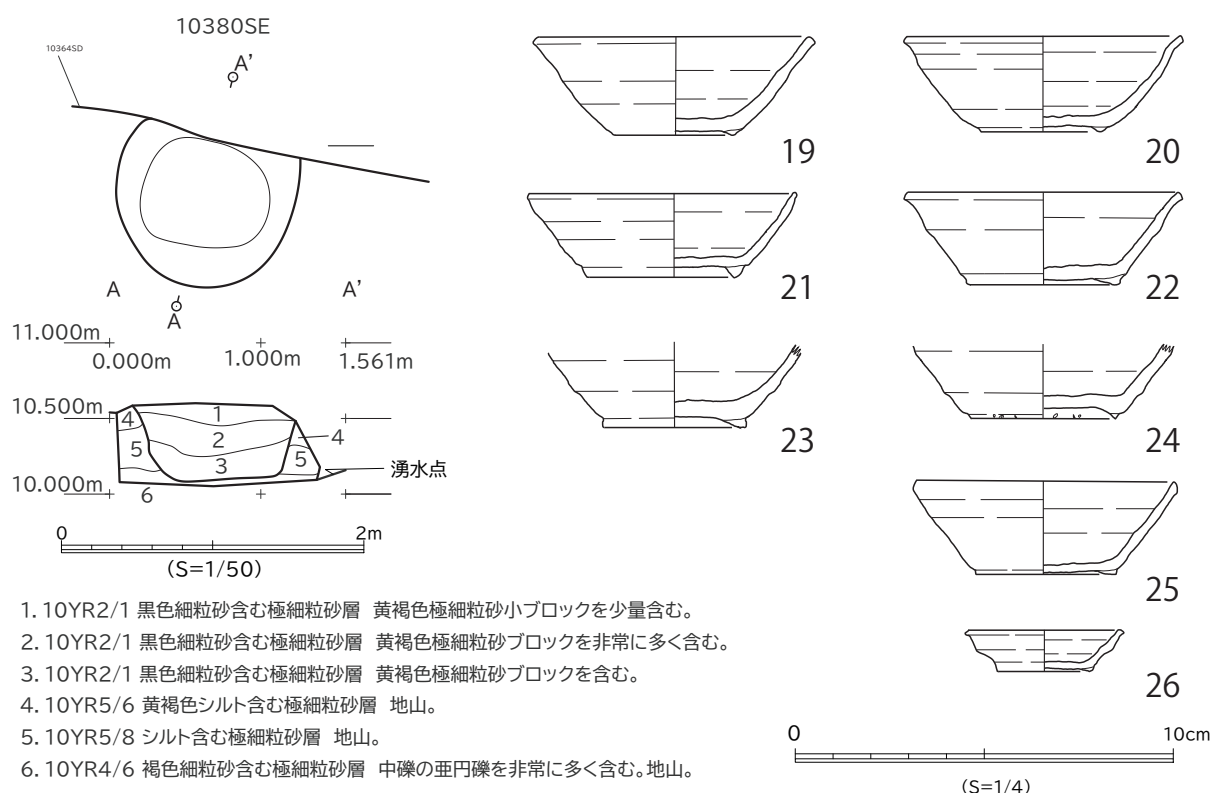


図8 10380SE 平面図・断面図 Ab 類

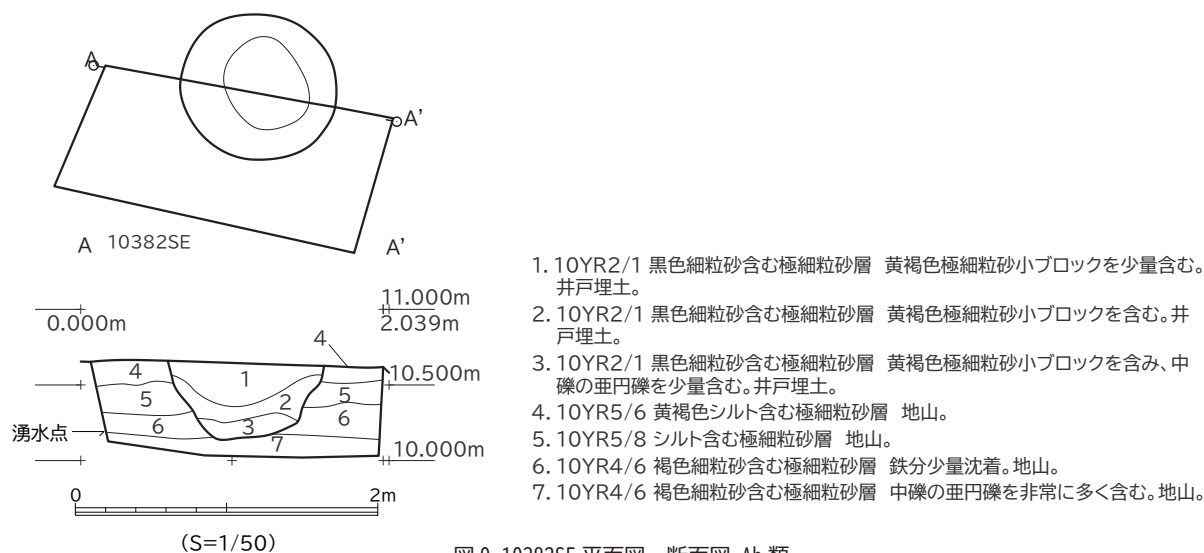


図9 10382SE 平面図・断面図 Ab 類

Ab 類の井戸

Ab 類の井戸は6基であった。

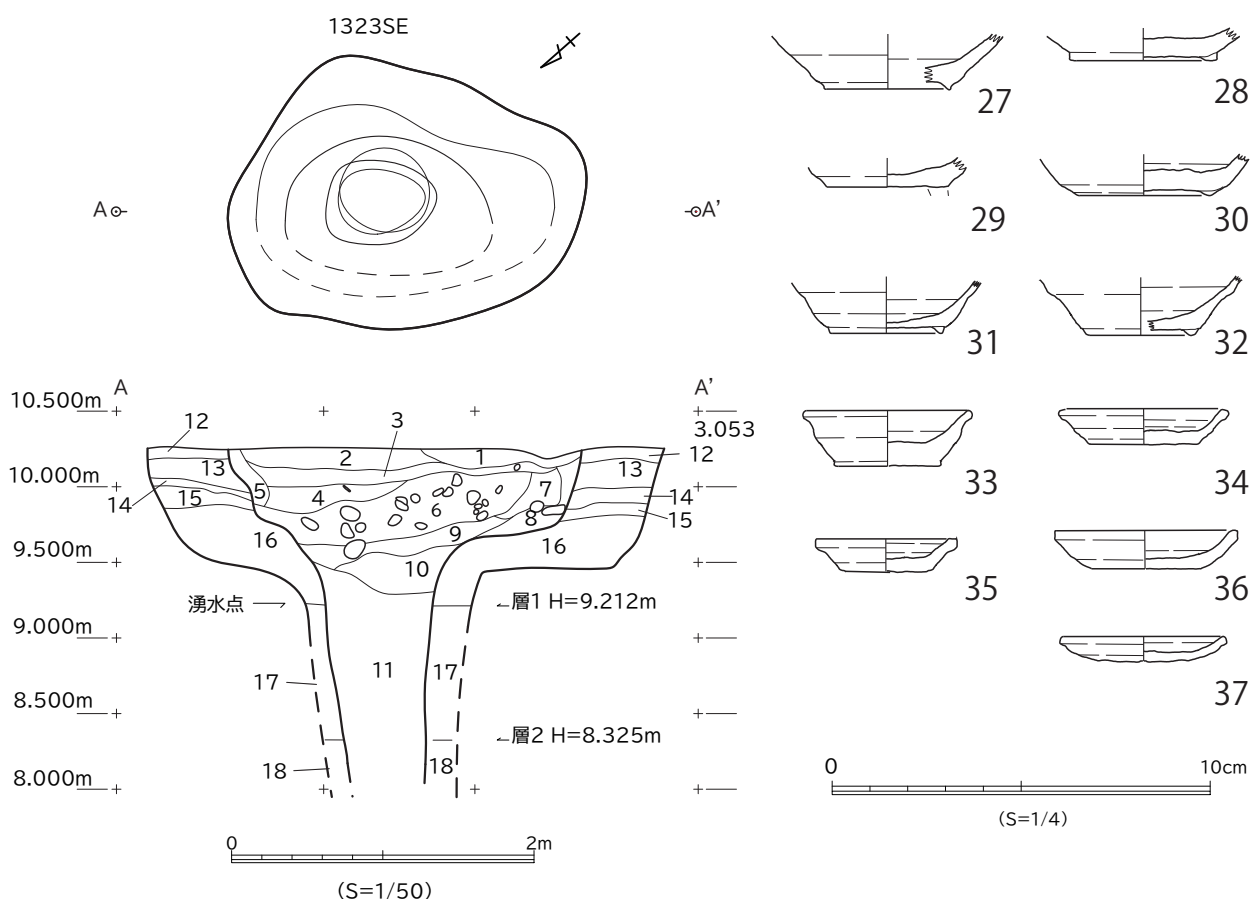
23Bb 区 1503SK は深さ 0.42m の井戸である。湧水層まで達しており約 15 cm 礫層を掘削している。掘り方の断面形状は、筒型に近い形をしている。

遺物は5点あり 14 から 16 は東濃型 7 型式の山茶碗、17 は東濃型 6 型式の小皿、18 は東濃型 7 型式の小皿である。

24Aa 区 10380SE は深さ 0.51m の井戸である。一部溝に切られている。湧水層まで達しており約 10 cm 礫層を掘削している。掘り方の断面形状は、筒形をしている。

遺物は8点ある。19 から 26 は山茶碗である。19 から 24 は尾張型第 5 型式、25 は尾張型第 6 型式、26 は尾張型第 6 型式の小皿である。

24Ab 区 10382SE は深さ 0.552m の井戸であ



- 1 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR3/4 暗褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。炭化物微量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。炭化物少量含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。礫中量含む。炭化物微量含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。
- 8 10YR3/4 暗褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。炭化物微量含む。
- 9 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR2/2 黒褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。大礫少量含む。
- 10 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土ブロック微量含む。大礫少量含む。
- 11 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。植物遺体少量含む。
- 12 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 10YR3/3 暗褐色 粘土ブロック微量含む。粘性強く、しまりやや強い。(地山)
- 13 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。(地山)
- 14 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや弱く、しまりやや弱い。(地山)
- 15 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR3/4 暗褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまりやや強い。(地山)
- 16 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 砂質土 大礫多量含む。粘性無し、しまり強い。(地山)
- 17 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質土 粘性無し、しまり強い。(地山)
- 18 10Y 4/2 オリーブ灰色 砂質土 大礫多量含む。粘性無し、しまりやや強い。(地山)

図 10 1323SE 平面図・断面図 Ac1 類

る。湧水層まで達しており約 15 cm 礫層を掘削している。掘方の断面形は、ロート型をしている。

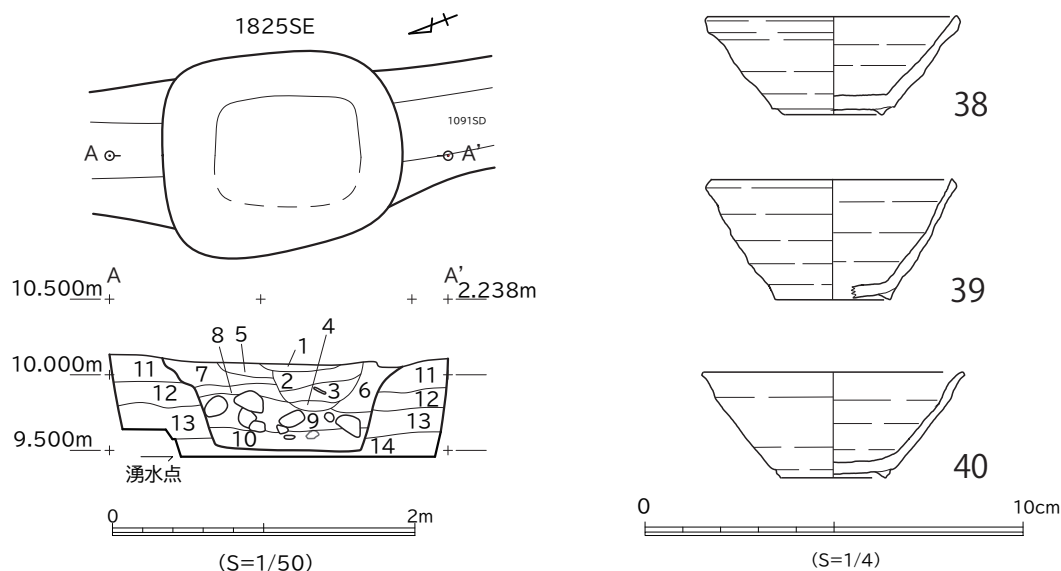
Ac 類の井戸

Ac 類の井戸は 3 基であった。

24Cb 区 1323SE は深さ 1.7m の井戸である。上層の湧水層を掘り抜き、下層の湧水層まで達している。掘り方の断面形状は、ロート型で段が

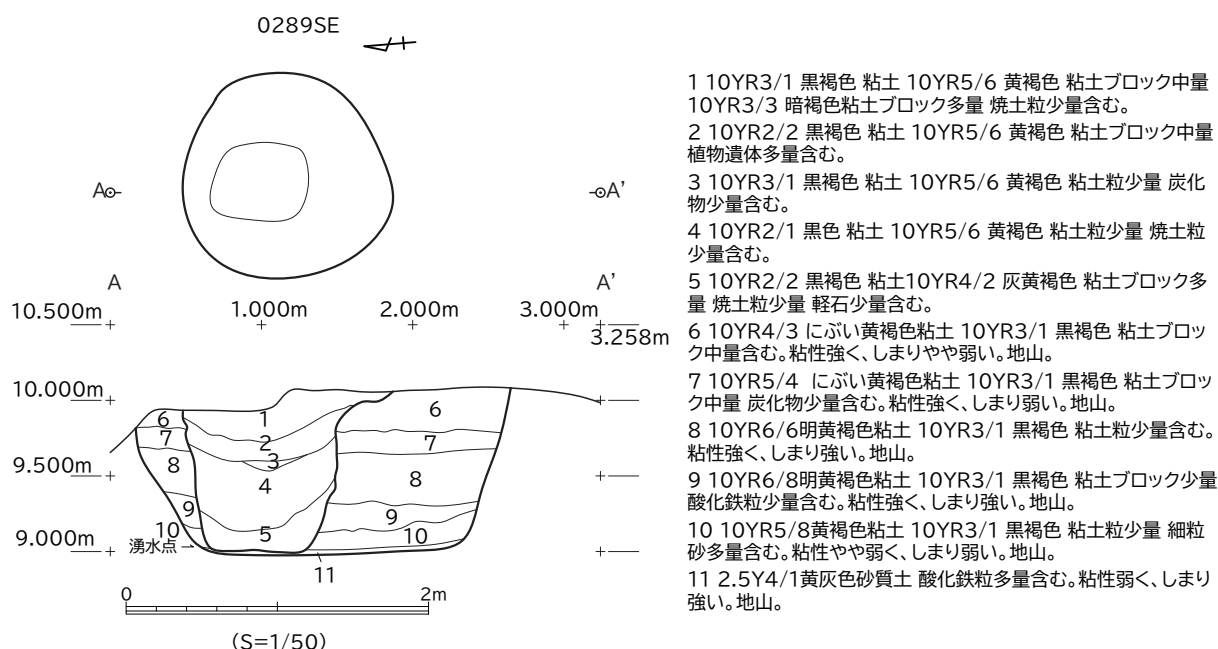
1 段ついている。

遺物は 11 点ある。27 から 32 は山茶碗である。27 は尾張型第 4 型式、28・29 は、尾張型第 5 型式、30 は尾張型第 6 型式、31・32 は東濃型第 7 型式である。33 は尾張型第 5 型式の小皿、34 は尾張型第 6 型式の小皿、35 は尾張型第 6 型式の小皿、36 は尾張型第 7 型式の小皿、37 は東濃型第 8 型式の小皿である。



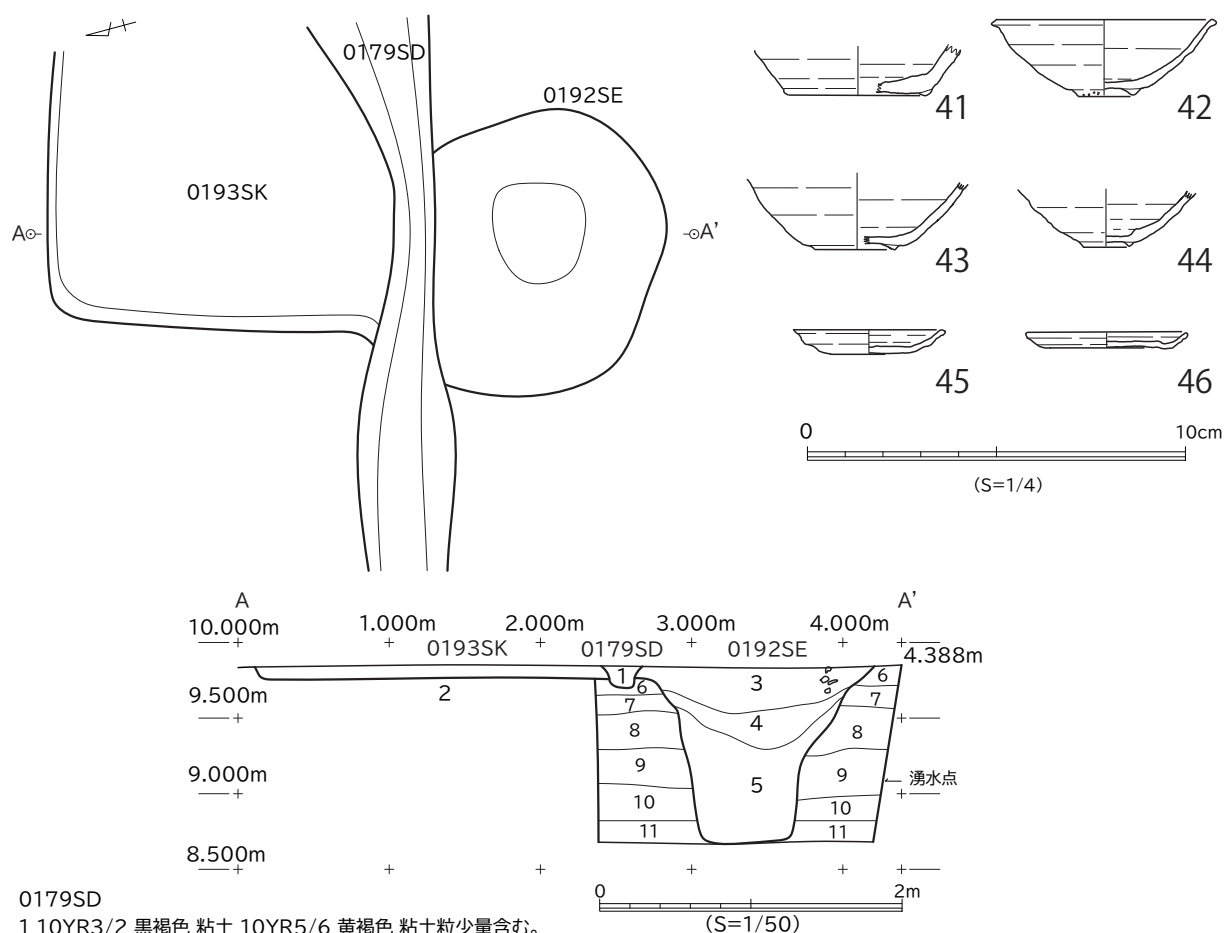
- 1 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。炭化物微量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。炭化物微量含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土粒微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。炭化物微量含む。中礫含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。炭化物微量含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR3/4 暗褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。炭化物微量含む。
- 7 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土粒微量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
- 8 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。炭化物微量含む。
- 9 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。巨礫多量含む。
- 10 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。礫中量含む。
- 11 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック少量含む。粘性やや強く、しまり弱い。(地山)
- 12 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまり弱い。(地山)
- 13 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土粒微量含む。炭化物少量含む。粘性強く、しまり弱い。(地山)
- 14 10YR4/6 褐色 シルト 10YR3/2 黒褐色 粘土ブロック少量含む。礫多量含む。粘性やや強く、しまり強い。(地山)

図 11 1825SE 平面図・断面図 Ba 類



- 1 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量 10YR3/3 暗褐色粘土ブロック多量 焼土粒少量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量 植物遺体多量含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量 炭化物少量含む。
- 4 10YR2/1 黒色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量 焼土粒少量含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック多量 焼土粒少量 軽石少量含む。
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土ブロック中量含む。粘性強く、しまりやや弱い。地山。
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土ブロック中量 炭化物少量含む。粘性強く、しまり弱い。地山。
- 8 10YR6/6 明黄褐色粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土粒少量含む。粘性強く、しまり強い。地山。
- 9 10YR6/8 明黄褐色粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土ブロック少量 酸化鉄粒少量含む。粘性強く、しまり強い。地山。
- 10 10YR5/8 黄褐色粘土 10YR3/1 黒褐色 粘土粒少量 細粒砂多量含む。粘性やや弱く、しまり弱い。地山。
- 11 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 酸化鉄粒多量含む。粘性弱く、しまり強い。地山。

図 12 0289SE 平面図・断面図 Bb 類



0179SD

1 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。

0193SK

2 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。

0192SE

3 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。

4 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。

5 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。

6 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック少量含む。粘性やや強く、しまり強い。地山。

7 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまり強い。地山。

8 10YR5/6 黄褐色 シルト 2.5Y5/6 黄褐色 シルトブロック中量 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。粘性無し、しまりやや強い。地山。

9 10YR5/6 黄褐色 粗粒砂 礫多量含む。粘性無し、しまりやや強い。地山。

10 5Y 3/2 オリーブ黒色 砂質土 粘性無し、しまり強い。地山。

図 13 0192SE 平面図・断面図 Bb 類

Ba 類

Ba 類の井戸は 2 基であった。

24Cb 区 1825SE の深さ 0.61m の井戸である。掘り方の断面形状はロート型である。湧水層の直上まで掘削されている。

主な遺物は 3 点あり全て山茶碗である。38 は尾張型第 6 型式、39・40 は東濃型第 7 型式である。

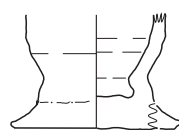
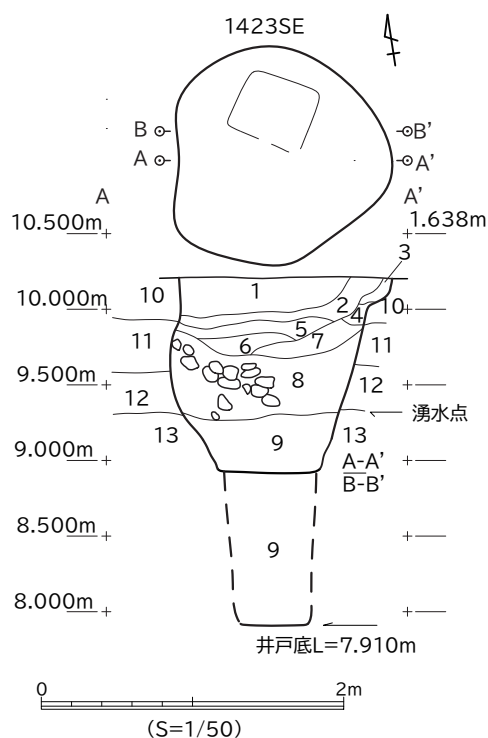
Bb 類の井戸は 2 基であった。

0289SE は深さ 0.75m の井戸である。掘り方はロート型である。湧水層まで達しており礫層

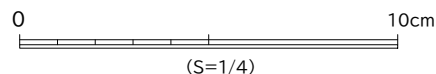
を約 15 cm 掘削している。

23D 区の 192SE は深さが 0.15m の井戸である。湧水層まで掘削されており約 20 cm 礫層を掘削している。掘り方の断面形状は、ロート型である。

遺物は 6 点で 41 から 44 は山茶碗である。41 は尾張型第 6 型式、42 は東濃型第 9 型式または 10 型式である。43・44 は東濃型第 10 型式である。45 は東濃型第 8 型式の小皿、46 は東濃型第 9 型式または 10 型式の小皿である。

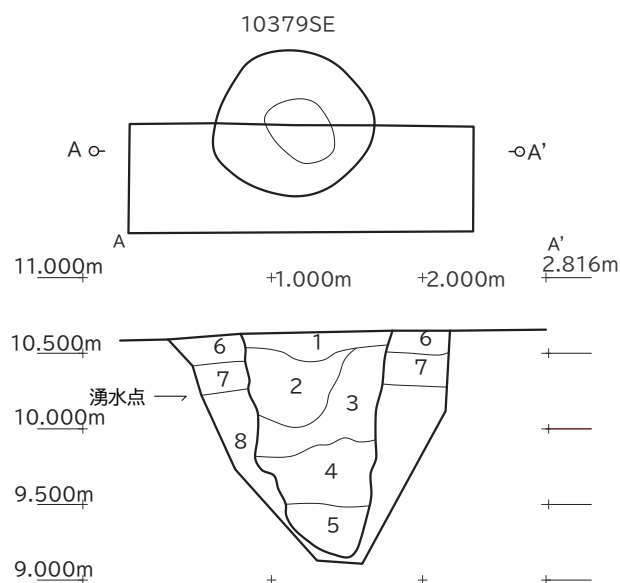


47



- 1 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR6/2 シルトブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR6/2 シルトブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。
- 5 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。炭化物微量含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック中量含む。
- 7 10YR3/2 黒褐色 粘土 10YR6/2 シルトブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。
- 8 10YR3/1 黒褐色 粘土 10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒少量含む。礫多量含む。
- 9 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR4/4 褐色 粘土ブロック微量 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。礫少量含む。
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック微量含む。粘性強く、しまりやや弱い。(地山)
- 11 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまり弱い。(地山)
- 12 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR3/3 暗褐色 粘土ブロック微量含む。粘性やや強く、しまりやや弱い。(地山)
- 13 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質土 礫多量含む。粘性無し、しまり強い。(地山)

図 14 1423SE 平面図・断面図 Bc1 類



1. 10YR2/1 黒色シルト含む極細粒砂層 黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む、中礫の亜円礫を含む。
2. 10YR2/1 黒色シルト含む極細粒砂層 黄褐色極細粒砂小ブロックを少量含む、細礫多く含む、中礫の亜円礫を少量含む。
3. 10YR2/1 黒色細粒砂含む極細粒砂層 黄褐色極細粒砂ブロックを含む。
4. 10YR2/1 黒色細粒砂含む極細粒砂層 黄褐色極細粒砂ブロックを含む、中礫の亜円礫を少量含む。
5. 10YR2/1 黒色シルト含む極細粒砂層 中礫の亜円礫を非常に多く含む。
6. 10YR5/6 黄褐色シルト含む極細粒砂層 地山。
7. 10YR5/8 シルト含む極細粒砂層 地山。

図 15 10379SE 平面図・断面図 Bc1 類

Bc 類の井戸

Bc 類の井戸は 2 基であった。

24Cb 区の 1423SE は深さが 2.3m の井戸である。下層の湧水層まで掘削されている。掘り方の断面形状は、ロート型で平面形状は隅丸方形である。

遺物は 1 点あり、47 の古瀬戸花瓶がある。

10379SE は、深さが 1.44m の井戸である。湧水層まで掘削されている。掘り方の断面形状は、ロート型で平面形状は隅丸方形に近い形をしている。遺物は出土していない。

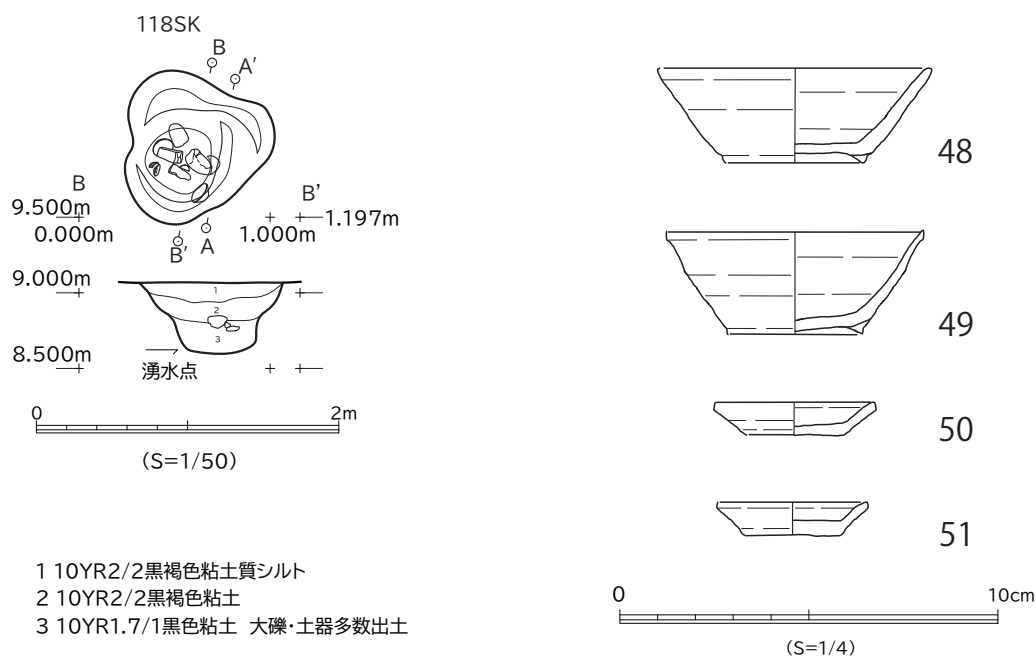


図 16 118SK 平面図・断面図 Ca 類

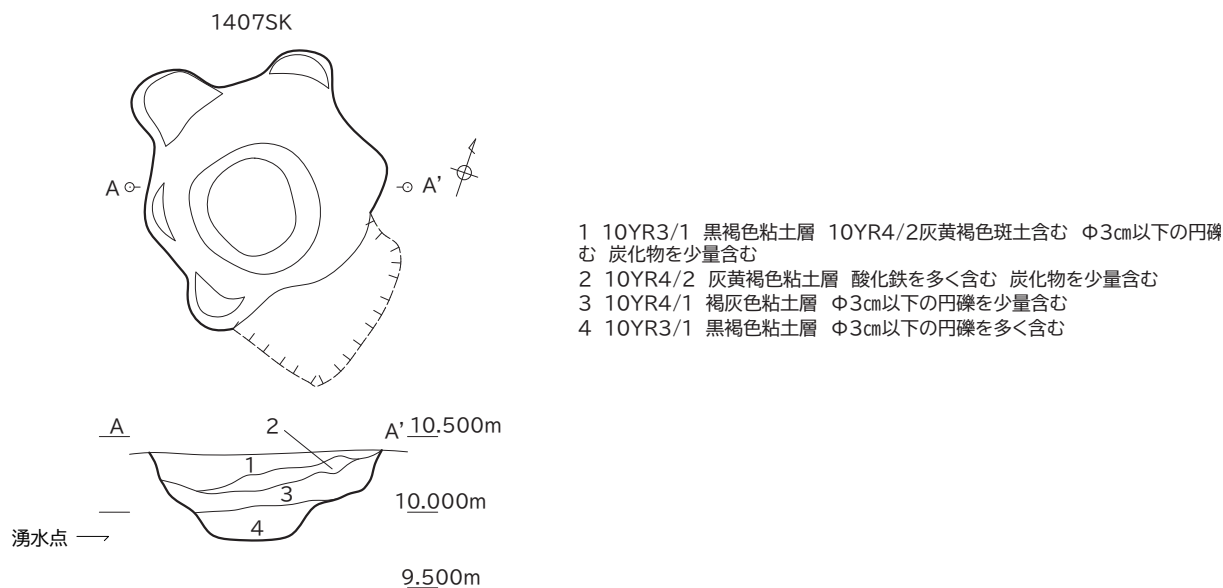


図 17 1407SK 平面図・断面図 Ca 類

Ca 類の井戸

Ca 類の井戸は 2 基であった。

24Hb 区の 118SK は深さが 0.48m の井戸である。湧水層の直上まで掘削されている。掘り方の断面形状は、ロート型である。

遺物は 4 点出土している。48・49 は山茶碗である。48 は尾張型第 5 型式、49 は尾張型第 5 型式または第 6 型式である。50・51 は、尾張型第 5 型式の小皿である。

1407SK は深さが 0.56 の井戸である。湧水層

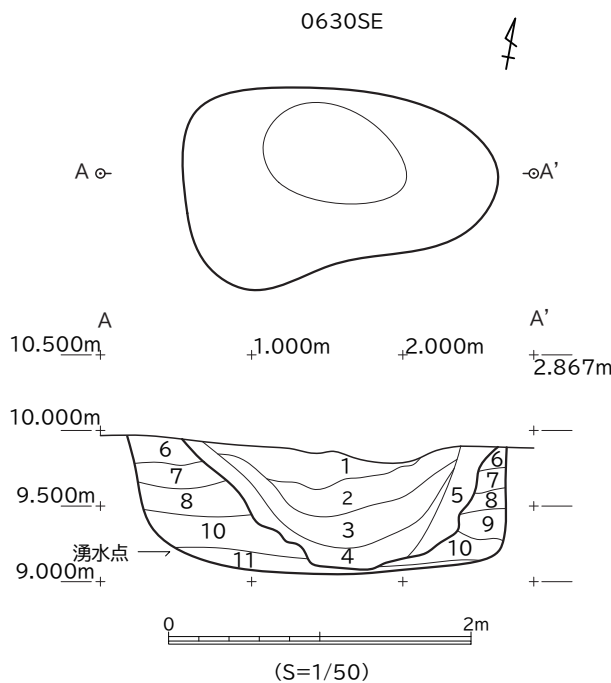
の直上まで掘削されている。井戸の断面形状はロート型に段が 1 段ついている。遺物は見つからない。

Cb 類の井戸

Cb 類の井戸は 2 基であった。

0630SE は深さが 1.15m の井戸である。湧水層に達するまで掘削されている。井戸の断面形状は不定形である。遺物は見つからない。

Cc 類は見つからない。



- 1 10YR2/3 黒褐色 粘土 10YR3/3 暗褐色 粘土ブロック少量含む。
- 2 10YR4/3 にがい黄褐色 粘土 10YR2/3 黒褐色 粘土ブロック中量含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色 粘土 7.5YR2/3 極暗褐色 粘土ブロック多量 10YR4/3 にがい黄褐色 粘土ブロック少量 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色 シルト 10YR4/3 にがい黄褐色 粘土ブロック少量含む。10YR5/6 黄褐色 粘土ブロック少量含む。炭化物微量含む。
- 5 10YR5/6 黄褐色 粘土 10YR4/3 にがい黄褐色 粘土ブロック微量含む。
- 6 10YR4/6 褐色 粘土 10YR3/3 暗褐色 粘土ブロック少量含む。粘性強く、しまり強い。(地山)
- 7 10YR4/6 褐色 粘土 10YR3/3 暗褐色 粘土ブロック少量含む。粘性やや強く、しまり強い。(地山)
- 8 10YR5/8 黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。粘性やや強く、しまり弱い。(地山)
- 9 10YR5/8 黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。粘性やや強く、しまり強い。(地山)
- 10 10YR6/8 明黄褐色 粘土 10YR5/6 黄褐色 粘土粒微量含む。粘性やや強く、しまり強い。(地山)
- 11 10YR5/8 黄褐色 砂質土 粘性無し、しまり強い。(地山)

図 18 630SE 平面図・断面図 Cb 類

西暦	形式/分類	尾張型山茶碗	東濃型山茶碗	古瀬戸	A a 類	Ab 類	Ac 類	Ba 類	Bb 類	Bc 類	Ca 類	Cb 類	Cc 類
1100		第3型式									118SK		
1150		第4型式	谷迫間				1520SE						
1200		第5型式	浅間・窯下 石丸3 窯洞	前 I a	0431SE 194SE 2405SE	1947SE							
				前 I b									
		第6型式	白土原	前 II	10380SE								
1250		第7型式	明和	前 III	10395SE 2618SE	1503SK	1323SE	1825SE					
1300		第8型式	大畑・大洞	前 IV 中 I 中 II 中 III 中 IV 後 I									
1350		第9型式	大畑・大洞新	後 II 後 III 後 IV 古 後 IV 新									
1400		第10型式	大洞東								1423SE 0192SE		
1450		第11型式	脇之嶋 生田										

表 1 青山神明遺跡 分類表

6. 井戸の時期の推定と若干の考察

青山神明遺跡で発見した井戸は、主に平安時代末期～室町時代にかけての井戸と推定される。遺物の多くは 12 世紀後葉から 13 世紀初めの尾張型第 5 型式の山茶碗であった。

表 1 では、今回取り上げた井戸の遺物から時期を推定した。

Aa 類が 6 基、Ab 類が 2 基、Ac 類が 2 基、Ca 類が 1 基、Cb 類が 1 基という結果となった。

井戸の深さと時期の関係について、井戸の深さは、a・b 類は、7 型式の 13 世紀まで見つかり、この時期以降では、見つからない。c 類は確認された井戸は少ないが 1520SE のように 4 型式の 12 世紀中頃や 1423SE などの 10 型式の 15 世紀頃の井戸が見つかり、200 年以上違っている。

a・b 類の湧水層の直上または湧水層まで達しているが礫層を 50 cm 以下まで掘削している井戸は、東濃型第 7 型式の山茶碗の時期までしか見つからないので井戸の深さと時期の関

青山神明遺跡井戸一覧		遺構番号	掘り方	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	遺物分類	時期	分類	
調査区										
23D		0431SE	-	2.1	1.87	0.43	尾張型第4型式の小碗1個・尾張型第5型式の山茶碗3個	12世紀後半～13世紀前半	Aa類	
24Cb		1520SE	筒	1.02	0.99	1.22	尾張型第4型式の小碗1個	12世紀半ばごろ	Ac1類	
24Cb		1947SE	ロート	0.79	0.78	0.68	尾張型第3形式の茶碗1個・尾張型第5型式の山茶碗1個	12世紀半ば～13世紀初め	Ab類	
24Aa		103805E	筒か	1.232	-1.207	0.517	尾張型第5形式の山茶碗5個、小皿1個・尾張型第6型式の山茶碗1個	12世紀後半	Ab類	
23D		0194SE	ロート	2.59	2.09	0.36	尾張型第4型式の小碗4個尾張型第4or5型式の山茶碗1個 ・尾張型第5型式の山茶碗3個・常滑壺	12世紀後半～13世紀前半	Aa類	
24Cd		2405SE	筒	1.6	1.58	1.18	尾張型第4型式小碗4個・尾張型第5型式の山茶碗が1個	13世紀半ば頃	Aa類	
24Cb		1825SE	ロート	1.57	1.33	0.61	尾張型第6型式の山茶碗1個・東濃型第7型式の山茶碗3個	13世紀半ば頃	Ba類	
24Cb		1323SE	ロート・2段	2.37	1.85	1.7	東濃7.3個・尾張6.2個 尾張5.4人	13世紀初め～13世紀半ば	Ac1類	
24Hb区		118SK	2段か	1.06	0.97	0.48	尾張型第5型式の山茶碗1個、小皿1個	13世紀頃	Ca類	
24Aa		103965E	ロートか	0.951	0.847	0.607	尾張型第5型式の山茶碗が1個・尾張型第6型式の山茶碗が1個・東濃型第6型式の山茶碗が1個・東濃型第7型式の山茶碗が1個	13世紀前半～半ば	Aa類	
24Ce		2618SE	-	-1.43	-0.88	-0.79	尾張型第6or7型式の山茶碗1個	13世紀前半～半ば	Aa類	
23Bb		1503SK	筒形か	0.99	0.92	0.42	東濃型第6型式の小皿1個・東濃型第7型式の山茶碗4個	13世紀後半	Ab類	
24Cb		1423SE	ロート	1.48	1.44	2.3	古瀬戸花瓶	14世紀頃	Bc1類	
23D		0192SE	ロート	1.5	1.3	0.15	尾張型第6型式の山茶碗1個・東濃型第8型式の山茶碗1個・東濃型第10型式の山茶碗2個・東濃型第9or10型式の小皿1個	15世紀半ば～後半	Bc1類	
24Aa		103795E	ロート	1.083	0.975	1.44	尾張型第4型式の山茶碗が1個		Ba類	たまご形
24Aa		10361SE	2段か	1.533	1.251	1.084			Ab類	
24Aa		10382SE	ロートか	1.038	0.967	0.522			Aa類	
24Ba		00056SE	-	1.864	1.524	0.498			Aa類	
24Ba		00087SE	-	1.774	1.756	0.806			Aa類	
23D		0190SE	皿状	-4.55	-3.08	0.8			Ac1類	
23D		0289SE	筒	1.35	1.34	1.09			Bb類	
23D		0317SE	筒	0.84	0.79	0.65			Aa類	
23D		0601SE	筒	1.34	1.27	0.63			Aa類	
23D		0602SE	筒	1.09	0.82	0.39			Aa類	
23D		0630SE	ロート	2.04	1.15	0.88			Cb類	
24Cb		1481SE	-	1.15	1.11	0.74			Aa類	
24Cb		1724SE	ロート	0.85	0.78	0.57			Aa類	
24Cb		1748SE	ロート	1.65	1.4	0.75			Ba類	
24Cb		1838SE	ロート	1.39	1.36	0.9			Bb類	
24De		0194SE	ロートか	1.76	-1.58	0.93			Ca類	
23E		0006SE	ロートか	1.29	1.17	-1			Ab類	
23E		0130SE	ロートか	1.16	1.33	0.82			Aa類	
23Bb		1366SK	皿状	1.63	1.37	0.62			Aa類	

表2 青山神明遺跡 井戸集成表

係はあると考える。c 類の遺物が含まれている井戸は今回 2 基のみ見つかっており、少ないので井戸の深さと時期を判断することは難しい。

表 2 は、青山神明遺跡から見つかった井戸の集成表である。

井戸の分類は Aa 類が 17 基、Ab 類が 5 基、Ac 類が 3 基、Ba 類が 2 基、Bb 類が 2 基、Bc 類が 2 基、Ca 類が 2 基、Cb 類が 1 基という結果になった。

井戸の掘り方の平面形状は、A 類の円形が 25 基で一番多く見ついている。この他にも C 類に分類した卵形の掘り方の断面形状の井戸がある。

半分以上の井戸で遺物は出土していないが表 1 を参考にして時期の推定を行う。

a・b 類に分類される井戸は、湧水層の直上に達していても地表面から 50 cm 以下なので 14 世紀よりも前に井戸が使用されていたと考える。c 類の井戸は、中世初めと中世中頃の 2 時期から見ついているので今回は時期の推定を行うことは難しい。

以上のことから掘方の平面形状と時期の関係については、A・C 類は山茶碗第 7 形式の 13 世紀中頃までであり B 類は第 10 形式まで確認されていることが明らかとなった。

深さと時期の関係については、13 世紀中ごろまでは a・b 類で c 類は 12 世紀から 15 世紀までの長い時期で確認されている。

7. 青山神明遺跡の井戸の深さの比較

愛知県の尾張地方の段丘（低位段丘）から井戸がまとまって出土した例は少ない。尾張地方の井戸は主に濃尾平野から見ついている。濃尾平野から見つかる井戸の深さは、1m 未満である。また、基盤層が崩れやすいので木材を用いて掘り方を保護している。一方青山神明遺跡は、全て素掘りの井戸であり深さは 1m 未満の井戸もあるが 1 m 以上の深さで礫層に達している井戸もある。

青山神明遺跡の井戸は地形の関係があるが、a 類の硬い礫層がある直上で止まっている井戸が多く深さは約 0.8m ～ 1.2m である。

今回青山神明遺跡の井戸の特徴として掘方の断面形状が B 類の井戸が見られた。他の尾張地

方の井戸は、A 類の円形が多い。深さは a 類が多い。遺物の時期では尾張型第 5 型式の山茶碗が多い。

青山神明遺跡の井戸で発見された山茶碗は鎌倉時代の尾張型第 5・6 型式の山茶碗が 15 世紀以降は東濃型第 7 型式の山茶碗が多く発見されたのでこの頃の井戸の特徴を示しているものかもしれない。今回の報告では掘方の平面形と深さから井戸の類型を行なった。残念なことにそれぞれの分類と時期についての明確な相関を掴むことはできなかった。しかし今後も井戸を集成し井戸の深さと時期の関係性の明確化を目指す。

今回扱うことができなかった遺構については、別のところで紹介したい。

本論を執筆するにあたり鈴木正貴氏には、井戸の分類方法や遺物の器種の時期を確認していただいた。また、現場でも遺跡や遺構の所見をいただいた。記して感謝を申しあげる。

【参考文献】

- 宇野隆夫 1982「井戸考」『史林第 65 巻第 5 号』史学研究会
- 鐘方正樹 2003『井戸の考古学』ものが語る歴史 8
- 埋蔵文化財研究会 2008『井戸再考』
- 埋蔵文化財研究会 2023『続井戸再考』
- 北村和宏 1997『尾張平野における中世井戸の構造とそ
の変遷に関する覚書』愛知県埋蔵文化財センター
- 鈴木正貴 2002「中世井戸についての若干の考察-愛知
県下の事例を中心として-」『東海の中世集落を考える』資
料集、東海考古学フォーラム